

松 山 大 学 論 集
第 21 卷 第 3 号 抜 刷
2 0 0 9 年 8 月 発 行

帝国農会幹事 岡田温(18)
—— 帝国農会幹事時代⑫ ——

川 東 靖 弘

帝国農会幹事 岡田温(18)

—— 帝国農会幹事時代⑫ ——

川 東 埤 弘

目 次

はじめに

- 第 1 章 大正 10 年
- 第 2 章 大正 11 年 (以上, 第 18 卷第 1 号)
- 第 3 章 大正 12 年
- 第 4 章 大正 13 年 (以上, 第 18 卷第 2 号)
- 第 5 章 大正 14 年
- 第 6 章 大正 15 年 (以上, 第 18 卷第 5 号)
- 第 7 章 昭和 2 年
- 第 8 章 昭和 3 年 (以上, 第 18 卷第 6 号)
- 第 9 章 昭和 4 年 (以上, 第 19 卷第 2 号)
- 第 10 章 昭和 5 年 (以上, 第 19 卷第 3 号)
- 第 11 章 昭和 6 年 (以上, 第 20 卷第 4 号)
- 第 12 章 昭和 7 年 (以上, 第 20 卷第 5 号)
- 第 13 章 昭和 8 年 (以上, 第 20 卷第 6 号)
- 第 14 章 昭和 9 年 (以上, 第 21 卷第 1 号)
- 第 15 章 昭和 10 年 (以上, 第 21 卷第 2 号)
- 第 16 章 昭和 11 年 (以上, 本号)

はじめに

前稿¹⁾で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～昭和10年まで考察したが、本稿では昭和11（1936）年の温の活動について考察することとする。本年帝農幹事を退職する。

第16章 昭和11年

昭和11（1936）年、温、65歳から66歳にかけての年である。

本年の米価（1石当たり）を見ると、1月29.63円、2月29.81円、3月30.08円、4月30.50円、5月31.10円、6月32.05円、7月31.88円、8月32.51円、9月31.99円と上昇し、10月以降、新米出回りにより29.61円、11月29.67円、12月29.43円と下落したが、暦年平均では30.69円であった。他方、米生産費（自作者、1石当たり）は昭和10年産が27.66円、11年産が25.80円で、米価はいずれも生産費を上回っており²⁾本年、ようやく深刻な農業恐慌状態からは脱したといえる。

しかし、なお、種々の重要な農政問題が山積していた。帝国農会は本年も種々の農政問題に対し、下からの農政運動を盛り上げていき、1月21、22日には道府県農会長協議会（総選挙対策、米穀自治管理法対策等）を開き、2月には総選挙に取り組み、各地に農政議員の応援活動をした。4月16日～18日には道府県農会幹事主任技師協議会を開き、5月1日には、道府県農会長協議会（米穀自治管理法対策）を開き、法案実現に務めた。また、本年、帝農部制

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温(7)～(17)－帝国農会幹事時代①～⑪－」（『松山大学論集』第18巻第1号、2、5、6号、第19巻第2、3号、第20巻第4、5、6号、第21巻1、2号、2006年4、6、12月、2007年2、6、8月、2008年10、12月、2009年2月、4月、6月）。

2) 加用信文監修、農政調査会編集『改訂 日本農業基礎統計』（農林統計協会、1977年）419、546頁。

の改革を行い、人事を決めた。それらの運動、政策立案、部制改革の中心に温が居た。そして、9月15日、温は帝農幹事を退職し、東浦庄治に後任を譲った。以下、見てみよう。

第1節 帝国農会幹事活動関係

昭和11(1936)年、温は正月を故郷で迎えた。1日は石井小学校における拝賀式に出席し、宴席にて選挙対策について所感を述べている。2日は野口文夫、高木梯之助らの来客に應對し、夕刻からは西堀政義、岡田英雄ら部落の青年5、6名を招き激励した。3日は牛瀨の八木忠衛家を訪問し、末光一家並びに清香上京の件について協議した。4日は温泉郡農会、県農会、県庁、試験場などを訪問した。後、温泉郡自治会での松山市水道関係者の会合に出席した。その席上、今回の総選挙(2月)に出馬要請があったが、温は拒否を明言した。5日、温は午前9時50分発の第10相生丸にて上京の途につき、途中午後8時30分京都に下車し、京都府農会幹事大島国三郎及び帝農幹事長予定の京都農蚕学校長の渡邊忠吾(明治44年10月東京帝国大学農科大学卒業)に迎えられ、停車場2階の食堂にて会見し、帝農内部問題等について懇談した。そして、温は午後10時15分京都発にて帰京の途につき、翌6日午前8時着し、帰宅した。

1月6日以降、温は種々業務を行った。6日は幹事会を開き、道府県農会長会議開催の日程(21、22日)を決めた。7日は農林省に行き、経済更生指導者研究会提出問題について下協議し、8日午後2時より経済更生中央協議会幹事会を開き、経済更生指導者研究会提出問題を協議した。なお、この日、那須博士が来会し、勝賀瀬幹事辞任について、「已ムヘカラサル」との意見を述べられたが、温は「俄ニ賛成シ難シ」との態度であった。9日は農会使命の再検討を執筆した。10日は農林省に出頭し、農務、水産、山林の各局長を歴訪し、経済更生指導者研究会のプログラムを伝え、出席を要望した。11日は農林省に出頭し、経済更生指導者研究会のプログラムの打ち合わせを行った。また、幹事会を開き、道府県農会長会議の準備をした。今回の会議は総選挙対策が中

心であった。12日（日）は終日在宅し、実科独立運動の原稿の起草をした。

1月13日より15日までの3日間、帝農事務所にて、農業7団体（帝国農会、産業組合中央会、帝国水産会、中央畜産会、全国山林会联合会、全国養蚕業組合联合会、農村更生協会）共同主催の農村経済更生指導者研究会を開いた。各団体から180名出席し、また、山崎農林大臣や湯河農政課長ら農林省関係者も臨席した。13日は農林大臣の訓示、また、小平経済更生部長の説明等がなされ、主催者提出事項「農村経済更生に関する実績の批判に関する事項」「経済更生の障碍となるべき事項及其の方策に関する事項」「経済更生指導機関の連絡指導組織及指導方法に関する事項」「経済更生計画に於ける生産計画に対する指導方針に関する事項」等が提案され、意見が続出した。14日も研究会を続け、温は無計画的生産増殖指導者に反論し、声を枯らしている。この日の日記に「無計算的生産増殖論者ニ痛撃ヲ加ヘ、為ニ声ヲカラス」とある。また、午後2時から東京帝大教授穂積重遠博士による「農村ト家族制度」についての講演があった。15日も研究会を続けた。午後1時から東京朝日新聞副社長の下村南海による「国際経済ノ現在ト将来」についての講演があり、3時半研究会を打ち切り、温が結末方法についての意見を述べ、酒井会長挨拶により閉会した。17日、温は赤坂三会堂における全国町村長会に出席し、また、商工省を訪問し、尺貫法存続の陳情を行い、また、小串、中村、石坂委員と共に政友会を訪問し、松野幹事長に面会し、政情、衆議院解散問題等を聞くなどした。18日は午後1時より内務省会議室にて開催の同潤会の東北農山漁家住宅改善委員会に出席し、また、高島幹事と来る道府県農会長協議会の議案について協議した。19日は万平ホテルに山田副会長を訪問し、道府県農会長会議の件、幹事長の件、勝賀瀬幹事辞任の件などについて相談した。後、赤坂幸楽にて開催の愛媛県人の新年宴会に出席した。20日は午後常置委員会を開き、石黒、中村委員が出席し、道府県農会長会議の議案について協議した。

1月21、22日の両日、帝国農会は帝農事務所にて、道府県農会長協議会を開催した。21日午前11時より開会し、全国から34名が出席し、また、農林

省より戸田農務局長，湯河農政課長，渡邊俣治技師等が臨席し，酒井会長の挨拶の後，温が諸報告を行い，また，協議事項¹⁾従来農会の主張せる重要農政問題実現促進に関する件，²⁾来るべき衆議院総選挙対策に関する件，³⁾硫安暴騰応急対策に関する件，を提案した。会議では主として総選挙対策について議論し，協議事項が委員会に付託され，午後4時40分まで協議し，大体の成案を得た。

なお，この日の21日，岡田啓介内閣は議会多数を占める野党政友会から内閣不信任案の上程を受け，第68議会を解散した。その結果，2月20日に第19回衆議院議員選挙が行われることになった。そして，この日，温に郷里の香川熊太郎（前，松山市長）から今回の総選挙に立候補するようにとの電報が来た。

1月22日も帝農は午前10時半より道府県農会長会議を開き，山脇延吉より委員会の決議案の報告がなされ，異議なく，「重要農政問題実現促進に関する決議」「来るべき衆議院総選挙対策に関する件」「硫安暴騰応急対策に関する要望」が可決された。このうちの総選挙対策として，帝国農会は「真に農村を理解し，熱意ある高潔の士を選挙すること」をスローガンに掲げ，「農業者の自覚を促す」ためポスターを作成，配布することを決めた³⁾。また，この日午後1時から山田副会長，委員，温ら幹事が農林省を訪問し，山崎農林大臣に面会し，重要農政問題実現促進の陳情（来る臨時議会には米穀自治管理法案，繭，肥料法案の成立を期すこと）を行った。なお，この日，温は前日の香川の立候補要請に対して，その意思なき旨を返電した。

道府県農会長協議会以降，帝国農会は総選挙対策に取り組んだ。1月23日，温は山田副会長と協議し，総選挙中，農会と関係の深い候補者の事務所を訪問，激励することの賛同を得た。また，この日，温は岡本馬太郎（愛媛県農会副会長，県議）に会い，今回の総選挙では現職の代議士須之内品吉（政友会）

3) 『帝国農会報』第26巻第2号，昭和11年2月，1，134，135頁。

を否認し、岡本に立候補を勧誘した。この日の日記に「岡本馬太郎君、今夕出発帰国、極力須之内否認、岡本君ノ立候補を勧誘ス。同君意大ニ動ク」とある。24日は総選挙用のポスターの作成を行い、警視庁の承認も受け、印刷に付した。また、福井甚三代議員らが来会し、推薦の依頼があり、承諾した。また、この日、自給肥料奨励優良村の審査会を開き、80余町村を選定した。25日は総選挙対策に関する原稿（『帝国農会時報』2月号）の執筆を行った。また、山梨県の若尾金造（山梨県農会副会長）が来会し、中立にて立候補するので推薦の依頼があり、原鉄五郎と千石興太郎の3人にて推薦することを了解した。27日、助川啓四郎前代議員より酒井会長の推薦状の依頼され、会長に通じたが、会長から他の関係上、謝絶の回答であった。28日は『帝国農会時報』の原稿を執筆。29日、帝農幹事会を開き、関係代議員応援方法を協議した。また、この日農産物販売協会第1回役員会を開き、酒井会長、温、勝賀瀬、有働ら、また、農林省から戸田農務局長、湯河農政課長、小平経済更生部長らが出席し、事業方針を協議し、宣伝、調査、視察等を決めた。30日、温は高島幹事と農会関係議員の応援について協議を行い、また、産業組合の千石興太郎とも協議した。後、温は酒井会長を私宅に訪問し、農会関係候補を応援し、応援演説をすることについて協議し、了解を得た。そして、関係候補は東武、西村丹治郎、高田耘平、八田宗吉、高橋熊次郎、助川啓四郎（以上、前代議員）、石坂養平（埼玉県農会長）、藤勝栄（福岡県農会長）、国光五郎（山口県農会長）、鈴木憲太郎（宮崎県農会長）、山口忠五郎（静岡県農会長）、木本主一郎（和歌山県農会長）であった。31日、温は応援候補者に対する手配をなし、温は岡山、長崎、福岡、宮崎、山口の諸県を担当し、高島は福島、栃木、山形、北海道を担当することに決めた。

2月も温は種々業務を行い、また、総選挙対策および農会関係候補応援のために活動した。1日は農林省に出頭し、小平更生部長、岡本販売課長と農産物販売協会の人事について協議した。3日、農会関係候補者の応援日程を決めた（千葉が14、15日に高橋熊次郎を、17、18日に助川啓四郎を、土屋が14日に

木本主一郎を、15日に福井甚三を応援等)。4日、温は酒井会長に農会関係立候補者の応援の件を報告した。また、この日、温は応援訪問につき、国光五郎、藤勝栄、木本主一郎、鈴木憲太郎らの立候補者に手紙を出した。5日、温は農会の応援演説出張者に演説要項を渡した。

2月5日、温は午後9時東京発にて、選挙応援、陣中見舞いのために、岡山、山口、九州に出張の途につき、翌6日午前11時岡山に着いた。そして、高梁町の西村丹次郎候補の事務所を訪問し、陣中見舞いを行い、激励し、岡山の大黒旅館に投宿した。7日午前11時岡山発にて山口に向かい、4時40分小郡に着き、国光五郎候補の応援に行き、午後7時から嘉川村公会堂にて開催の演説会に出席し、来会の350余名に対し応援演説、さらに小郡町役場議事堂にて開催の演説会に出席し、来会の300余名に対し、応援演説をした。8日は午前11時小郡発にて熊毛郡に行き、伊保の庄村小学校では50余名に、阿月村小学校では120余名に、曾根村小学校では100余名に、大野村小学校では50余名に対し、国光候補のために応援演説を行った。夜の11時に終了し、岩田村の国光宅に宿泊した。9日、温は午前7時25分岩田発にて、中田正輔候補の応援のため長崎県佐世保に向かい、午後5時50分佐世保に着した。10日、中田候補の事務所を訪問、激励し、後、故中倉万次郎の葬儀に参列し、終わって、武雄に行き、東京屋に投宿した。11日、午後3時40分武雄を出発し、福岡県二日市に行き、大丸旅館に投宿し、難所ヶ原高等女学校における藤勝栄候補の演説会に出席し、370余名に対し、応援演説を行った。12日は三潁郡大川町の山崎達之輔候補の事務所に立ち寄り、酒井会長の意を伝え、後、朝倉郡三奈村に行き、同村の公会堂にて開催の藤候補の演説会に臨み、来会の40余名に対し、応援演説を行った。終わって、浮羽郡田主丸町に行き、丸喜館に投宿した。13日は午前7時20分田主丸町を出て、大分県日田郡日田町に下車し、郡農会を訪問、後、大分を経て、午後5時28分宮崎県延岡に着し、鈴木憲太郎候補の事務所を訪問、激励し、吉野旅館に投宿した。14日は午前7時30分延岡発にて児湯郡妻町に行き、鈴木憲太郎に会い、激励し、後、大分に行き、

午後6時40分大分発にしき丸にて高浜に向かい、12時高浜に着し、久保田旅館に石井信光（愛媛県農会書記）、沖喜予市（愛媛県農会技手）、関谷の農会連とともに投宿した。

ここで、少し、愛媛の政界状況について触れておこう。愛媛の現有議席は政友会7人、民政党2人で、政友会が圧倒的に議席を独占していた。今回の選挙は政権与党側の民政党にとって勢力逆転の絶好のチャンスであった。民政党は攻めの選挙、政友会は守りの選挙であった。温の属する愛媛第1区（定員3、松山市、温泉郡、伊予郡、喜多郡、上浮穴郡）では、与党の民政党が現職の武知勇記と元議員の松田喜三郎の2人を立てた。野党の政友会の現職は須之内品吉と大本貞太郎であったが、須之内を公認せず、大本と新人の岡本馬太郎を立てた。それに対し、須之内が反発、離党し、中立で立候補した。政友会側はただでさえ不利な上に事実上3名となり、混乱・乱立模様となった。温の15日の日記に「岡本君安心ヲ許サス」とある。

2月15日、温は岡本馬太郎候補の別働隊の中心として応援演説に回った。この日、温は午後、松前町劇場にて、藤谷隆太郎（県農会技手）、沖喜予市（同）らと共に来会の120余名に対し、応援演説を行い、夜は午後7時半からは川上村小学校で、次に田窪駅前劇場で、さらに10時過ぎ小野村公会堂で、来会の130余名に対し応援演説をした。16日、帝農参事の土屋春樹が愛媛に選挙応援にやって来た。温は土屋に第2区（今治市、越智郡、新居郡、周桑郡、宇摩郡）から立候補している元衆議院議員で民政党の小野寅吉（愛媛県農会議員、温の親戚）の応援に行き、温はこの日、午後2時より味生小学校で27、28名に対し、7時より伊予郡北伊予小学校にて170余名に対し1時間熱弁を振るい、次に森松座に行き、約200名に対し、さらに須之内候補の地盤の久枝村小学校に行き、岡本の応援理由を述べ、一同肅然で、相当の手ごたえを感じ、午後12時高浜発の錦丸にて、野口文夫、藤谷隆太郎、関谷、近藤事務長に見送られ、岡本の必勝を祈りつつ、帰京の途につき、翌17日午前11時半神戸に着き、12時20分発の燕にて上京、午後9時東京に着し、帰宅した。

2月18日は午前10時5分上野発にて埼玉県に行き、石坂養平（埼玉県農会長、政友会）候補の応援に行った。まず、熊谷市劇場にての演説会に行ったが、間にあわず、午後2時より深谷町の松竹劇場に行き、来会の140余名に対し、原鉄五郎らと共に温が石坂候補の応援演説をした。また、午後7時より秩父町秩父座にて、来会の120余名に対し、応援演説を行い、12時熊谷市の田島旅館に投宿した。19日、温は午後2時より比企郡野本村に行き、同小学校での演説会に出席し、来会の60余名に対し、石坂候補の応援演説を行い、ついで、唐子村に行き、同小学校での演説会に出席し、来会の18名に対し、応援演説し、さらに、泰村に行き、同小学校での演説会に出席し、来会の250余名に対し、応援演説した。終わって、午後9時30分熊谷発にて帰京し、11時半帰宅した。また、この日、午前、温は無産政党的の社会大衆党から出ている杉山元次郎候補（大阪第5区）のために運動費5円を電報為替にて送付し、また激励の電報を發した。

2月20日、衆議院議員選挙の投票日である。温はこの日、農林省に出頭し、戸田局長、湯河農政課長に選挙状況を報告し、特別議会に対する運動について協議した。21日、市部で開票がなされた。埼玉で石坂養平が当選した。22日郡部で開票がなされた。つぎつぎに当選者が出た。温は当選した石坂養平、藤勝栄、国光五郎、西村丹治郎、河野一郎、土屋寛に祝電を送った。23日にも東武、荒川五郎、大口喜六、高田耘平、八田宗吉、松野鶴平、菅野善右衛門、森肇、小西和、高橋熊次郎、助川啓四郎、杉山元次郎、平野力三等々78名に祝辞を送った。なお、愛媛では、第1区では、民政党的の武知勇記と松田喜三郎、政友会の大木貞太郎が当選し、温が推した政友会系の岡本馬太郎と元政友会系の須之内品吉が落選した。この日の日記に「岡本君ノ落選ハ須之内ガ五千以上ハ取り得ズト観測セルニ一〇、〇八三票ヲ得タルニ因ル」とある。また、第2区では、温が推した小野寅吉（民政党的）は当選した。全国的には民政党的205、政友会171、昭和会22、社会大衆党18、国民同盟15、その他35で、政権与党的の民政党的の勝利となった。24日は帝農幹事会を開き、農会役員表彰の件に

ついて協議した。

2月26日、二・二六事件が勃発した。この日の日記に「出勤。吹雪。昨夜来軍隊（麻布三連隊×××）ノクーデター。陸軍教育総監渡邊錠太郎、岡田首相、高橋蔵相、其他大官邸ヲ機関銃ヲ以テ襲撃シ、渡邊氏ハ全家族、首相、蔵相死亡トノ風評アリ。警視庁ハ軍隊ニテ占領シ、警官ハ影モ見ヘズ。朝日新聞、東京日々新聞等モ襲ハレント。隣リノ農工銀行ハ十一時前ドアヲ下シ閉店。新聞号外モ出デズ。夕刊ニハ右ニ関スル何等ノ報道ナク、事態愈重大ナルモノ、如シ。人心恟々」とある。27日午前3時半戒厳令が布かれた。この日の日記に「出勤。戒厳令ノ布カレタル東京トシテハ何等異状ナシ。但シ、参謀本部付近ハ警戒嚴重。市内ハ平常ト異ナラズ。正午頃、軍（市民ハ賊軍ト呼ブ）ハ新議事堂ニ引上グト」とある。温はこの日、会長と電話にて話し、3月3、4日の農政委員会を延期することを決め、農会経営の講習要項を草した。また、久々ぶりに銀座を散歩し、松屋にて買物をした。28日、軍解散せず、形勢愈重大となった。この日の日記に「出勤。日比谷、霞関一带通行禁。柵ヲ廻ラシ警戒嚴重。蚕糸館、中金等ハ事務員ノ出勤者ヲ入レズ。帝国農会モ市電ノ一部休止ノタメ出勤セラレザルモノアリ。玄関ヲ閉ヂ、女事務員ヲ帰宅セシメ、重要書類ノ取マトメ等ヲナス。酒井会長宅ヲ訪問シ情勢ヲ聞ク。軍ハ首相官邸ヨリ幸楽ノ辺ニ集団シ、外部ヲ警備軍ニテ包囲。軍重要部ノモノト折衝説得中。若シ頑強ニ聴カザレバ討伐ノ覚悟ノ由云々。甲府聯隊、千葉聯隊続々入京。種々ノ流言飛ブ。午后四時ヨリ尾崎盛信君ヲ伴ヒ、高橋前蔵相、岡田前首相邸ヲ訪問ヒ弔意ヲ表ス。帰途、農相邸ニ立寄り慰問ヲナス。岡田氏邸ハ眞ニ質素ナル住居」とある。29日、反乱軍帰順せず、事態愈重大となったが、午後漸く帰順した。この日の日記に「省電、市電ウンテン中止（銀座以東ハ運転ノ由）。丸ノ内へハ人ヲ入レズ。出勤ヲ見ハス。八時着ノ号外ニヨレバ、叛徒（初メテ叛徒ノ字ヲ用ユ）最後の帰順ノ命ヲ奉ゼズ、『勅命ニ抗スルニ至レリ、事已ニ茲ニ至ル。遂ニ已ムナク武力ヲ以テ事態ノ強行解決ヲ図ルニ決セリ』云々。ラヂオニテ流弾等ノ恐レアレバ可及的外出セザルヤウトノ注意。午后叛軍全部帰

順。平常ニ復帰ス。省線電車午后八開通。野中四郎大尉以下叛軍中心部青年将校二十名ヲ免官トシ、位ノ返上、勲等功級記章□奪トナル。岡田首相生存。殺害サレシハ松尾源蔵大佐…。昨日ハ岡田邸ニ伺候シ、霊前ニ焼香シタルニ」とある。

3月も温は種々業務を行い、また、出張した。1日は北海道にての農政講演の原稿、講農会報の原稿執筆等、2日は幹事会を開き、府県農会幹事技師協議会の開催日程や農政委員会の開催等を決めた。3日も幹事会を開き、幹旋部、経営部にて新規に職員を約10名採用することを決めた。

3月3日、温は午後1時半上野発にて福島、北海道に出張の途についた。この日、午後7時40分福島に着し、飯坂温泉花水館に投宿し、翌4日午前9時より福島県農会楼上にて開催の農会技術者講習会に出席し、来会の100余名に対し、農会経営について午後4時半まで講義した。終わって、温は午後7時40分福島発にて北海道に向かい、翌5日午前7時10分青森に着き、8時20分の津軽丸に乗り、函館に着き、午後1時半函館発にて北上し、7時40分札幌に着き、駅近くの敷島館に投宿した。なお、この日、近衛文磨が天命を断ったため、前外相の広田弘毅に組閣命令が出ている。「組閣天命、広田外相ニ降下ス」。6日、温は午前10時より道農会にて開催の小麦販売統制協議会に出席し、来会の農会技術員、産業組合長ら40余名に対し、協議会開催の趣旨説明し、野勢参事の農産物販売に関する講演を行った。午後は小麦を題材に農産物販売に関する懇談会が行われ、午後4時閉会した。7日も協議会が行われ、温が午前10時より12時半まで農業経営について講演を行い、午後は小麦を題材とする農業経営について意見交換がなされ、午後4時閉会となった。8日、温は午前8時40分札幌発にて空知郡岩見沢町に行き、9時40分岩見沢に着き、10時より空知会館にて開催の道農会農政講演会に出席し、来会の120余名に対し、午後3時30分まで講演を行った。終わって、旭川市に行き、7時半に着き、北海ホテルに投宿した。9日午前9時20分発にて比企村に行き、午前には役場にて簿記の審査を行った。比企村は全村高級の簿記が行われている

全国無比の村であった。午後、温は比企村小学校にて、来会の150余名に対し、約2時間更生計画について講演を行った。日記に「比企村経済更生ノ実力ヲ有ス」と記している。終わって、旭川に戻り、宿泊した。10日は午前10時より上川郡農会にて開催の農政講演会に出席し、来会の250余名に対し、午後3時半まで講演を行った。この日の日記に「終始緊張。講者ト聴者ノ心気通シテ一体トナル。近来ノ快事」とある。終わって、岩見沢に戻り、岩見沢ホテルに投宿した。11日は午前8時28分発にて空知郡栗沢村に行き、簿記審査を行い、午後は清真布小学校にて、来会の150余名に対し、講演を行い、終わって札幌に戻り、9時38分発にて帰京の途につき、翌12日午前7時松前丸に乗り、正午青森につき、午後1時青森発に乗り、13日午前7時東京に着し、帰宅した。

温が北海道に出張している間の、3月9日、広田弘毅内閣が誕生した。陸軍が組閣に干渉し、広田は陸軍の要求を全面的に受け入れることで内閣が誕生した。政党からは政友会が2人、民政党が2人入り、農林大臣は政友会の島田俊雄が就任した。

北海道から帰京した後、温は種々業務を行った。13日は帝農幹事会を開き、役員表彰者29名を選考した。また、農山漁村関係8団体（帝国農会、産業組合中央会、帝国水産会、全国養蚕業組合联合会、中央畜産会、全国山林会联合会、帝国耕地協会、農村更生協会）の広田新内閣への要望事項を建議するために農相、首相官邸に行き、決議を渡した。8団体は温が出張中の3月9日及び12日に帝農事務所にて会合し、(1)統一農林行政機構の確立、(2)農産漁村民利益代表機関の充実、(3)土地制度の改善（適正なる小作料の制定、自作農維持創定施設の拡充等）、(4)満州農業移民の政策の確立、(5)負担均衡の是正、(6)価格の調整（米穀政策の確立、蚕糸政策の確立、肥料政策の確立、農林水産物関税政策の確立等）、(7)金融の改善、(8)協同組織化の奨励、等を決議していた⁴⁾ 14

4) 『帝国農会報』第26巻第4号、昭和11年4月、142頁。

日は午前農林省に出頭し、農村経済更生中央委員会の幹事会に出席し、26日開催の中央委員会の準備、また、午後は帝農にて農業関係団体の経済更生中央協議会幹事会を開き、明年度の事業方針、地方にての研究会の開催につき、協議した。15日(日)は農林行政改革私見を草した。16日は東京高等農林学校第1回卒業式に出席し、夜は渋谷福寿亭にて卒業生の懇親会に出席した。

3月17、18日の両日、帝国農会農政委員会を開催した。片野重脩(秋田)、大島英二(福島)、中村哲蔵(茨城)、石坂養平(埼玉)、小串清一(神奈川)、山本莊一郎(長野)、石黒大次郎(新潟)、山口忠五郎(静岡)、小林嘉平治(三重)、山脇延吉(兵庫)、恒松於菟二(島根)、国光五郎(山口)、門田晋(愛媛)、藤勝栄(福岡)らの委員が出席し、また、帝農側からは酒井・山田の正副会長、温、高島、勝賀瀬の幹事が出席し、委員会を開き、温が総選挙に際し帝国農会がとった対策について報告し、後、高島幹事が農業関係8団体の会議、農林商工合併論に対する処置を報告し、ついで、協議事項⁽¹⁾新内閣に対する要望、⁽²⁾来る特別議会対策、について協議した。会議では、小委員会(山脇、恒松、片野、大島、石坂)を設け、関西府県農会案を参酌して、各事項について温が説明、立案した。そして、18日も午前、農政委員会を開き、声明書及び新内閣への要望事項、土地制度調査会の設置を決議した。終わって、午後は3組に分かれ、大蔵、内務、政友、民政党を訪問陳情した。温は大蔵、内務省を訪問した。なお、この帝国農会農政委員会で決議した決議(声明書、要望書、土地制度調査会設置)は次のとおりである。

「声明書 農村は我国力の源泉にして其の振興を見るに非ざれば国民経済の発展を期し得ざるは自明の理なるを以って農林行政機関の独立強化は最も緊要なることに属し大正十四年農商務省を分離して農林省の独立を見たる亦此の趣旨に外ならざるなり。然るに最近一部に農林商工両省を合併して産業省となさんとすの意見ありと聞く。斯くの如きは現下の非常時局に処する国策の根本に反するのみならず、時代に逆行するの甚だしきものと云はざるべからず。如上の理由に依り本会は農林商工両省合併に断乎反対を声明す。」

「要望書 現下の国情は国防の充実と農村の更生を基調とせる強固なる国策の樹立を要望せられつつあるを以て国防の整備と共に農村更生上必要欠くべからざる左記諸政策を断行し、以て農民生活の安定を期せられんことを切望す。

記

一、農林行政機構の革新断行

現在中央地方を通じ農林行政の機構は各局課指導統制を欠き、労費多くして成績挙がらざるを以て此際農林行政機構の革新を断行せられたきこと

二、農村産業団体の機能發揮に対する助成

最近に於ける農林行政の趨向は官営万能に偏し、為に農村更生上必須の要件たる農民の自治的活動を阻害し、形式に墮し、冗費を増大し農村の実情に即せざる状態となりつつあるを以て、此際官庁及民間団体間の指導の分野を明確にし後者の活躍を促進せられたきこと

三、農村産業団体の統制断行

現在の産業団体は不必要なる分派をなし小農の実態に適合せず、其根源は農林行政機構の分裂割拠にあるを以て此際本末共に整理統制せられたきこと

四、米穀自治管理法外二件の制定

米穀自治管理法外二案は既に第六十七議会に於て十分検討せられたる案件あるを以て速やかに其の制定を断行せられたきこと

五、産繭処理統制法の制定

産繭処理統制法は第六十七議会に於て審議を重ねたる重要な蚕糸業政策の一つなるを以て速やかに其の制定を断行せられたきこと

六、肥料業統制法の制定（化学肥料の不当な独占価格の矯正等）

七、負担均衡の実現（地方財政調整交付金制度の確立等）

八、農家負債整理の徹底的助成並びに農村金融の改善（略）

九、農会技術員の俸給国庫補助増額

農村更生上最も重要なるは優良なる指導者の勤続にあるを以て農会技術

員の俸給全額を補助し指導者の地位を安定せしめ農村更生の実行を督励せられたきこと

十、農業保険制度を確立せられたきこと（略）

また、土地制度調査会設置は次のとおりである。

「農村問題の根底をなす土地制度に関し、小作問題、耕地分配問題、国有林野利用問題等につき改革を要する事項頗る多きを以て、帝国農会に土地制度調査会を設け具体案を作成すること」⁵⁾

3月19日、温は山田副会長と渡邊忠吾幹事長の辞令など人事を決めた。20日は山田副会長と帝農職員の定期昇給等を決めた。また、午後3時より島田農相より農相官邸における米穀関係者50余名の招待会があり、出席した。21、22日は朝日新聞依頼の原稿の執筆等、23日は農林省に出頭し、湯河農政課長らに土地制度の問題について所見を述べた。24日は農業経営10年の成績に関する石橋幸雄の原稿の検閲等。25日は愛媛県農会主催の青果物の市場関係者との懇談会に出席した。26日は帝農職員の昇給、昇格の案を作成した。また、午後3時より農相官邸にて農村経済更生中央委員会があり、幹事として出席し、更生施設恒久化を審議した。27日は帝農にて自給化及び簿記表彰審査会を開いた。また、温は酒井会長宅を訪問し、帝農職員の定期昇給及び昇格の裁定を得た。28日は日本蚕糸中央会主催の蚕糸祭に出席し、会長代理として挨拶、29日は朝日新聞依頼の原稿の執筆等、30日は丸の内の農林省米穀局の分室に行き、米仲買人救済問題について協議した。また、この日、帝農職員の昇給昇格問題を決した。久しぶりの昇給であった。31日、渡邊忠吾新幹事長が赴任した。また、帝農職員に定期昇給及び昇格者に辞令を交付した。

4月も温は種々業務を行った。1日、温は農林大臣、農林省の各課を訪問し、渡邊幹事長の就任挨拶に同行した。2日は渡邊幹事長と協議し、職員採用試験や農政常任委員会の開催日程を決めた。また、本日より朝日新聞に小農制

5) 『帝国農会報』第26巻第4号、昭和11年4月、143、144頁。

に基づく農政改革の原稿を執筆した。3日は農会記念日に放送する酒井会長の放送演説の原稿手入れを行い、また、帝国農会部制改革案の作成等をした。6、7日は帝国農会に会計検査院の検査が入ったが、無事終了した。また、7日に帝農幹事会を開き、道府県農会幹事主任技師協議会に提出する議案を決めた。8日も幹事会を開き、職員採用、農政常任委員会等について協議した。9日は渡邊幹事長と農林省に出頭し、長瀬農林次官及び荷見米穀局長を訪問し、米穀自治管理法案提出に関する打ち合わせを行った。また、この日、帝農の販売幹旋部員の職員採用試験を行った。8名の募集に対し、15名の応募があり、午前筆記試験、午後、4幹事にて口頭諮問を行った。10日は帝国農会農政委員会の常任委員会を開き、広田内閣の特別議会对策を協議し、後、小川商工相、島田農相を訪問し、陳情した。

4月10日、温は午後5時40分上野発にて栃木県宇都宮に出張の途につき、午後8時着し、白木屋に投宿し、翌11日午前9時半より体育館にて開会の栃木県市町村農会総代会に出席した。1,400余名が出席し、宣言、決議、意見発表等があり、温は午後1時半より農会の指導精神について1時間半ほど講演を行った。12日は塩谷郡喜連川町の経済更生計画を視察した。しかし、それは杜撰極まるもので、批判の値にしないもので、種々注意を与え、午後2時氏家発にて帰京の途につき、4時上野につき、帰宅した。

4月13日、温は道府県農会幹事主任技師協議会の準備を行い、また、渡邊幹事長に会計の引継ぎを行った。これにて温の幹事長代理の任務が終了した。14日は幹事主任技師協議会の協議案、報告案の作成を行い、渡邊幹事長に経営部の事業についての説明を行った。また、幹事会を開き、職員7名の採用者を決めた。15日は温が幹事長に幹事主任技師協議会の説明を行い、また、午後1時より農相官邸にて第1回経済更生中央委員会の特別委員会があり、出席した。

4月16日より18日まで3日間、帝国農会は帝農事務所にて道府県農会幹事主任技師協議会を開催した。全国から幹事、主任技師56名が出席し、農林省

側から戸田農務局長，湯河農政課長，渡邊技師等が臨席し，帝農側から酒井，山田の正副会長，渡邊幹事長，温，高島，勝賀瀬幹事が出席した。16日午前10時半開会し，酒井会長が議長を務め，渡邊幹事長が就任挨拶及び大要を説明した。そして，各部長から各部の事業報告及び本年度の方針の説明があり，協議事項「農産物生産販売の総合指導方法に関する件」「郡市農会技術員の地位安定に関する件」「雪害及寒害救済に関し政府へ要望の件」「農政問題解決上農業者の政治的自覚促進に付き各級農会の執るべき方法に関する件」「農民精神の分解的研究並に農民道の振肅に関する件」等が提案された。17日も協議会を続け，午後2時協議事項を委員会に付託した。後，一同は酒井会長邸の園遊会に出席した。18日も協議会を続け，午前は委員会，午後2時より本会議を開き，全部委員会案通り可決した⁶⁾

4月19日(日)は「米穀政策と反産運動」の原稿を執筆した。20日は勝賀瀬幹事に副会長，渡邊幹事長と共に最後の留任懇願を行った。しかし，副会長も幹事長も留任の熱意は少なく，遺憾であった。21日は農業経営10年の成績について石橋幸雄の原稿の閲覧を行い，また，特別議会対策について計画を立てた。22日は幹事と部制改革について協議，23日は『帝国農会報』の5月号の農政時評「増税と不均衡負担の矯正」「農業政策と反産運動」を執筆した。24日は部制改革案の起草を行い，また，幹事会を開き，さきの道府県農会幹事主任技師協議会の決議事項の処理等を協議した。25日は部制問題について渡邊幹事長と協議した。27日は三井報恩会より寄附を得た農業経営成績調査委員会(戸田保忠，佐藤寛次，安藤広太郎，那須，橋本伝左衛門，渡邊惺治，大島国三郎)を開いた。28日は午前10時より農相官邸にて経済更生中央委員会の第1小委員会に出席し，また，大島国三郎と部制改正について協議した。30日は帝農採用の新職員，見習生に農会の使命についての講義を行った。

5月も温は種々業務を行い，また，農政運動，議会对策を行った。1日，広

6) 『帝国農会報』第26巻第5号，昭和11年5月，113～115頁。

田内閣の初めての第69特別議会が召集された。2日は午前農政常任委員会を開き、特別議会対策を協議し、午後民政党、政友会に陳情した。また、午後6時より中央亭にて農政研究会の旧幹事会を開き、東、高田西村、荒川ら10余名が出席し、農政委員と懇談した。4日は貴族院、衆議院議員に送る農業法案成立依頼状および米穀自治管理法反対論への反駁文を草し、また、温、渡邊、高島の3人にて議会に行き、農政研究会の会員募集活動を行った。また、午後3時から温は帝農採用の新職員、見習生のために講義を行った。5日特別議会が開会し、温ら幹事3人にて議会に行き、各派の空気を偵察し、農政研究会員の募集活動を行い、また、午後2時より温は見習生のために農産物価格問題について講義を行った。6日も議会に行き、農政研究会員の募集活動。7日は米穀自治管理法及び産繭処理統制法案、肥料統制法案への反駁文を草し、また、幹事会を開き、明日の農政委員会の準備を行った。8、9日の両日、帝国農会は帝農事務所にて第3回帝国農会農政委員会を開催した。片野、大島、中村、小串、山本、石黒、小林、山脇、木本、恒松、国光、門田の各委員が出席し、帝農側から正副会長及び幹事が出席し、特別議会に政府が上程する農村関係重要法案の両院通過について協議し、民政、政友の幹部に面会、働きかけることにした。そして、この日、温は午後衆議院に行き、民政党の武知勇記、小野寅吉と会見し、米穀自治管理法案に対する反対派の策謀対策を協議した。9日、温は武知勇記の電話により衆議院に行き、民政党の幹部室に米穀自治管理法案に賛成側の質問者、岡田喜久治のために質問要項を渡した。そして、この日、衆議院に米穀自治管理法案が上程され、民政党側から反対の工藤鉄雄、賛成の岡田喜久治の質問、政友会の河野一郎等の質問の後、36名の委員会に付された(委員長は東武)。

5月10日、帝国農会は、特別議会運動のため、道府県農会長協議会を開催した。全国から47名の会長らが出席した。農林省側から湯河農政課長、渡邊

7) 『帝国農会報』第26巻第6号、昭和11年6月、148頁。

技師らが臨席し、帝農側から正副会長、渡邊幹事長、温、高島、勝賀瀬幹事が出席し、第69議会上程の農村関係重要法案の実現促進に関する運動方針を協議し、各県船室の代議士に陳情すること、また、5人組の一隊を組織し、関係大臣及び政党幹部に陳情することにした。そして、声明を発表した。声明は「米穀自治管理法案外二案、産繭処理統制法案及重要肥料業統制法案ハ何レモ農村多年ノ懸案ニシテ朝野各方面ノ意見ヲ総合シ鋭意講究ノ結果立案セラレタルモノナリ。右法案ノ成立ハ現下農村ノ実情ニ鑑ミ焦眉ノ急ヲ要スルヲ以テ、吾人ハ両院通過ノ為万難ヲ排シ一路邁進セントス」であった。11日、各府県農会長は各県選出の代議士に陳情を行い、また、山脇、片野、谷口、大島、小林らの一隊は島田農相、小川商工相、民政党の山道襄一、政友会の太田正孝議員に面会、陳情した。また、この日、産繭処理統制法案が衆議院に上程され、27名の委員会に付された。12日も午前議会につめ、運動し、午後道府県農会長会を開き、昨日来の運動の状況を報告し、今後の運動について協議した。米穀商の反対運動が猛烈なため、一昨日の決議を改め、各県1名の滞京者を置き、運動に違算なきことを期することにした。また、この日、肥料法案が衆議院に上程された。また、午後6時から帝国農会にて農政研究会総会を開いた。33名が出席し、旧幹事東武が開会の挨拶を行い、農政研究会の歴史を述べ、西村丹治郎を座長に今期特別議院に提出された米穀、産繭、肥料の3法案に対する協議を行い、熱烈なる演説があり、法案の通過を決議した。13日、帝国農会は農村関係3法案の成立を期するために議会对策事務局を設置した。委員は渡邊幹事長、温、高島、勝賀瀬の各幹事、片野、大島、小串、山脇の各農政委員であった⁸⁾。この日、帝農は滞京の農会長20余名を集め、本日の打ち合わせを行い、一同衆議院に行き、米穀自治管理法案の特別委員を訪問し、委員会の進行督促を行った。特別委員会では、ブルジョア側の渡邊鏡蔵(民政党、日本商工会議所理事)が議事引き延ばしていた。午後4時、滞京の農会長等が

8) 『帝国農会報』第26巻第6号、昭和11年6月、148~149頁。

帝農に集合し、3法案の特別委員の私宅を訪問することを決め、温は河野長生、高落松男と共に佐藤謙之助、森幸太郎、加藤賢司、鶴惣平、服部岩吉、森肇、伊藤東一郎、小野寅吉、山田又司、佐竹晴記の各委員を訪問した。14日、温は衆議院に出頭し、議会の状況を窺った。この日、民政党は幹部及び政務調査会、米穀自治管理法案の委員の会議を開き、結論を7名の委員に託することになり、松村謙三、岡田喜久治、高橋守平、角源泉は米穀自治管理法に賛成で、渡邊鍊蔵と田島勝太郎（元、商工次官）が反対となった。15日、民政党、政友会ともに午後1時より代議士会を開き、政友会は米穀・産繭の2法案賛成に決したが、民政党はまとまらなかった。そこで農会長らは2組に分かれ、両党本部に行き面会、陳情した。温は民政党組に加わり、山道政務調査会長と永井隆太郎幹事に面会、談判を行ったが、都市議員の説得に苦心しているとのことであった。16日、31県の府県農会長が集合し、益々運動熱が加わった。この日、産繭処理統制法案が衆議院本会議に上程され、可決し、貴族院に送られた。そこで、貴族院対策を計画し、府県選出の多額納税議員宅を訪問、陳情した。17日（日）日曜日であるが、午前7時半帝國農会に運動委員が集合し、ただちに貴族院に運動を開始した。高島幹事は山脇延吉、大島英二と共に貴族院の渡邊千冬、曾我祐準、裏松友光、大久保立議員を訪問、温は谷口源十郎、鈴木清助と共に、岩倉道俱、深尾隆太郎、松平康昌、黒田長和を訪問、陳情した。あと、全員貴族院に出頭し、各派の交渉係に面会、陳情した。この日、民政党は午後3時から代議士会を同本部に開き、米穀自治管理法に対する最後の協議を行った。会議は秘密会で、出席者は缶詰とし、午後7時まで会議し、漸く総務一任となった。18日、米穀自治管理法案が衆議院に上程の予定にて、午前10時過ぎより温らは衆議院に詰めた。そして、午後8時衆議院に上程され、可決された。そして、19日、米穀自治法案が貴族院に上程され、簡単な質疑の後、27名の委員会に付託された。午後3時半酒井会長が来会し、運動員一同に対し、貴族院での運動方針を指導し、ただちに5班に分かれ、貴族院の特別委員宅を訪問、陳情した。温は衆議院における肥料法案通過のために運

動し、午後6時政友、民政の妥協が成立し、午後8時45分衆議院本会議で可決した。これにより、農業関係3大法案がすべて衆議院を通過した。20日、出勤途次、温は牧医院に行き、臀部の腫れ物を診察を受けた。頑疔であった。この日、温は午前運動委員を7班に分け、衆議院の3法案の特別委員及び政党幹部にお礼回りを指示した。また、この日、肥料法案が貴族院に上程され、委員会に付託された。そこで、運動員を3班に分け、貴族院の特別委員の私宅を訪問、陳情した。また、山田副会長、山崎、松原、鈴木委員等も貴族院内で陳情活動を行った。また、この日、産繭処理統制法案が貴族院本会で通過、成立した。21日も運動員は貴族院で運動した。運動員の1隊は貴族院内で、他の2隊は貴族院研究会の幹部の私宅を訪問、陳情した。温はこの日衆議院に行き、町田忠治総裁以下各派幹部に米、繭、肥料の3案に尽力された人々に礼に回った。22日、和歌山の木本圭一郎、新潟の石黒大次郎らの運動員が続々上京し、貴族院に対し、運動を行った。23日、温は治療中であった臀部の腫れ物が治らず、痛み激しく、歩行すら出来なくなり、欠勤した。この日午前貴族院で米穀自治管理法案および肥料法案が委員会を通過し、午後本会議に上程され、5時両法案共に通過した。そして、帝国農会は午後6時より上野精養軒にて、衆議院の農政研究会員全員、府県農会長の貴族院議員および運動に従事した府県農会長を招待し、祝杯を挙げた。24、25日も終日在宅し、牧医院で治療を受けた。26日に漸く出勤したが、椅子に腰をおろし、執務することができなかった。27日は午後出勤し、幹事長と帝農の部制について協議した。29日は道府県農会農業経営協議会の準備。30日、農林省に出頭し、田中総務課長に経営主任者協議会の出席依頼、また、農務局、農政課に議会中のお礼挨拶をした。「荷見米穀局長、村上外地課長大満足ノ様」であった。

6月も温は種々業務を行った。1日から4日までの4日間、帝国農会は道府県農会農業経営協議会を帝農事務所にて開催した。全国から経営主任47名が出席し、農林省から湯河農政課長、田中総務課長、渡邊保治技師ら臨席、帝農側から酒井会長、渡邊幹事長、温、高島幹事が出席した。1日は午前10時開

会し、午前は渡邊幹事長が、午後は温が議長を務め、田中総務課長の農村経済更生の理想的方針についての報告、帝農の報告、協議事項「農業経営改善指導と農家組合指導との連繋に関する件」の説明等があった。2、3日も協議会を続け、意見の発表、討議がなされた。4日、協議事項の農家組合指導に関する決議を行い、午後1時終了し、2時よりは懇談会に移り、5時半閉会した。この日の日記に「午後一時協議会ヲ終り、二時ヨリ懇談会ヲ開キ成績ノ批判ヲナシ、為ニ昂奮シ議論出ヅ。午後五時半終了。閉会ノ挨拶ヲナス。本協議会ハ比類ナキ真面目ニシテ熱心ニ意見ノ交換ヲナス。年ヲ逐フテ自信ヲ加へ来ルガ如シ。併シ、岩手、群馬、山口、兵庫等ノ外ハ発言少ナシ」とある。

6月6日は農村更生協会主催の農家簿記研究会に出席、7日は高島幹事と勝賀瀬幹事問題について協議、7～9日は「農業と経済」より依頼の「系統農会の発達を語る」の原稿執筆、10日は米穀問題の原稿、11日は幹事会を開き、農政研究会の開催日程を決め、また、広田内閣の庶政一新計画に対し、農会側の要望を起草、12、13日は講農会報の米・繭・肥料3法案の批評の執筆、14日は中央産業組合新聞及び内外通信依頼の原稿執筆、15日は農政委員会の協議問題の私案起草、16日は渡邊俔治と帝農内部問題及び温の問題について協議、17日は幹事会を開き、販売斡旋に関し、天明郁夫（横浜販売所所長）らから意見を聴く。18日は部制改革について土屋、千葉から意見を聴く。19、20日は第4回帝国農会農政委員会を開催した。片野重脩、大島英二、石坂養平、小串清一、山本莊一郎、石黒大次郎、山口忠五郎、小林嘉平治、山脇延吉、木本圭一郎、恒松於菟二、門田晋、藤勝栄らの委員が出席した。農林省側から荷見米穀局長、重政肥料課長、吉田繭糸課長らが、帝農側から正副会長、渡邊幹事長、温、高島幹事が出席し、19日は農林省側より米穀自治管理法等の説明がなされ、後、協議事項、(1)米穀、蚕糸、肥料各関係法律の運用に関する件、(2)政府の明年度予算編成に際し要望すべき事項に関する件、(3)今後農会の農政運動計画に関する件、が協議され、小委員会に付託することになった。20日は午前小委員会を開き、成案を得て、午後2時会議を開き、山脇委員長より報

告があり、「政府に対する要望事項」「今後の農会の農政運動計画に関する件」が可決された。後、午後3時、山脇、片野、恒松、藤と山田副会長、温ら3幹事が島田農相を訪問し、陳情した。なお、「政府に対する要望事項」は、1. 農林行政機構の革新並びに農村産業団体の整理統制、2. 負担の均衡、3. 農家負債整理の徹底的助成、4. 農会技術員俸給国庫補助増額、5. 農業保険制度の確立、6. 米穀検査の国営実施、であり、「今後の農会の農政運動計画」は、従来の農政運動は主として議会開会中に行っていたが、今後は常時臨機にこれを行うことにする⁹⁾ というものであった。21日は渡邊幹事長と帝農内部改造問題について協議、その後、万平ホテルに山田副会長を訪問し、帝農改造問題を持ち出したが、会長、副会長の間に何か計画するものがある様であった。22日、農政委員の松山、片野、山脇及び山田副会長、渡邊幹事長が馬場蔵相を訪問し、陳情した。また、松山、山脇委員が島田農相を訪問し、特に農会技術者俸給国庫補助について陳情した。23日は松山兼三郎と共に大蔵省を訪問し、大蔵参与の丹下茂三郎に面会し、農会技術者俸給問題について懇談し、俸給補助問題は進展した。後、午後2時より農業関係団体の経済更生中央協議会幹事会に出席した。24日は午前、九州県農会における会長挨拶文の起草、午後は農林省に出頭し、戸田農務局長、湯河農政課長に対し、農会技術者俸給問題の計画を促した。25日は渡邊幹事長に部制改革に対する所見、心情を披瀝した。26日、温は西ガ原に安藤広太郎氏を訪問し、帝農改革に関する所見を述べた。その際、安藤氏から「例ノ一派ニテ勝手ナ案ヲ作成シ、余程進行中ラシ」との情報を受けた。温はこの日の日記に「今度ハ相当面白キ事態ヲ発生セシ三分ノ不安ト七分ノ快心」とある。27日、温は尺貫法存続問題で岡部子爵、波多野子爵と共に文部省を訪問し、陳情した。また、渡邊幹事長と再び帝農改造問題について懇談したが、尚意思が通じなかった。

6月28日、温は午後11時東京発にて酒井会長と共に九州に出張の途につ

9) 『帝国農会報』第26巻第8号、昭和11年8月、155～156頁。

き、翌29日大阪に途中下車し、帝農の販売斡旋所を視察し、午後2時発の那智丸にて乗船し、大分に向かい、30日午前9時20分別府に着き、午前10時より教育会館にて開催の九州各県農会役職員会に出席した。成清大分県農会長、酒井帝農会長らの挨拶の後、議事に入り、午後3時から遊覧バスにて別府視察し、午後6時から共楽亭にての懇親会に出席した。7月1日も協議会に出席し、午前9時より委員会、午後1時協議会、3時に閉会し、6時から於多福にて成清農会長招待会に出席した。2日は午前10時より教育会館にて開催の大分県農会大会に出席した。480余人が出席し、午後温と渡邊俣治技師が各1時間講演を行った。終わって、午後6時発の錦丸にて愛媛に向かい、11時高浜につき、帰宅した。

7月3日、温は午後12時発のむらさき丸にて上京の途につき、翌4日正午神戸に着き、0時20分発の燕にて東京に向かい、午後9時東京に着き、帰宅した。6日は土屋春樹と帝農内部問題について協議等、7日は大島国三郎と温の一身上の問題（不明だが、おそらく幹事退職）について懇談し、また、午後2時より農業関係団体の経済更生中央協議会幹事会に出席し、地方にて開催する更生指導者研究会の日程等について協議した。8日は農林省に出頭し、間部農産課長に小麦奨励に関する打ち合わせを行い、補助金を要求した。また、小平更生部長と明日の経済更生中央委員会の打ち合わせをした。9日午後2時より農村経済更生中央委員会が開催され、酒井会長、石黒忠篤、岩住良治、千石興太郎らの委員及び幹事が出席し、本年開催の更生指導者研究会に関する計画及び本事業の恒久化問題を協議した。そこで、石黒忠篤氏の更生部観と帝農の農政委員の更生部観は見解を異にしていると温は感じた。後、温は安藤広太郎氏を訪問し、帝農改革問題について懇談し、10時過ぎ帰宅した。後、渡邊俣治と土屋春樹が来宅し、帝農改革問題について心配し、種々忠言があった。しかし、温は「多少難有迷惑」と感じている。10日は埼玉県に行き、午前10時より県農会主催の農家組合研究会に出席し、午後2時より40分ほど農家組合について講演を行い、終わって帰宅した。11日、温は千葉容山に幹事辞任に

ついて話した。また、西ガ原に安藤広太郎氏を訪問し、辞任の決心を告げた。13日、温は渡邊幹事長に帝農改革に関する所見を披瀝した。それは「改革案ヲ自分ニテ立案し、改革決定発表ト同時ニ自分ハ退任」であった。幹事長は満足の様子であった。後、幹事会を開き、帝農総会、評議会の日程を決めた。また、午後1時より農林大臣官邸に行き、経済更生小委員会に出席し、答申案を決めた。14日は午後2時より農業関係団体の経済更生中央協議会幹事会を開き、農政運動展開について協議し、別に倶楽部を作ることとした。また、この日、渡邊幹事長より、産業組合中央会主事の東浦庄治¹⁰⁾の帝農幹事復帰への説伏を依頼され、快諾した。15日、帝農部制改革案を土屋、千葉両君に再度検討させ、一層徹底せる案が作成された。また、この日、温は産業組合を訪れ、東浦庄治に面会し、銀座の伊東屋にて帝国農会入りを勧誘した。しかし、東浦は渡邊幹事長を信頼しない様子で、承諾しなかった。16日は中金理事長室にて更生協会主催の農林省経済更生特別補助の検討会議に出席した。また、この日、午後6時より青山いろはにて勝賀瀬幹事の送別会と天明郁夫（帝農参事に就任）の歓迎会を開いた。17日は麴町警察の特高課長が来会し、農村団体の進出問題の説明を求められ、所見を述べた。また、この日、農村団体結成問題小委員会を開き、浜田（産中）、杉野、小林（帝国水産会）、土屋春樹、千葉容山らと下相談。また、勝賀瀬に帝農部制改革案を示し意見を求めた。18日、勝賀瀬より部制改革案への意見が寄せられた。19日、温は帝国農会部制改革案の最後の検討を行い、成案を作成した。21日、東浦庄治に白木屋にて

10) 東浦庄治（ひがしうら しょうじ）は明治31年4月三重県渡会郡城田村に生まれ。生家は耕地1町5反を所有する自作農家。宇治山田中学、八高を経て大正12年3月東京帝大経済学部を卒業し、大学に残るよう勧められたが、生家の経済的負担を考えてこれを止め、恩師で帝国農会副会長であった矢作栄蔵の招きで同年4月帝国農会に入り、農村問題の理論的実証的研究に従事した。東浦は小作問題を初め、農村負担問題、物価問題金融問題等々の農村諸問題に本格的に取り組み、これらを単に農政評論風に取り上げるのではなく、資本主義と小農という根本視角にたつて、農村諸問題の台頭してくる背景を理論的に究明する学究的で進歩的な農政学者であった（栗原百寿『農業団体に生きた人々』210～227頁）。昭和7年12月に帝農参事を辞任し、翌8年3月産業組合中央会に転じ主事をしていた。東浦は岡田温と同じ小農論者で、温の後継者にふさわしかった。この時、38歳。

面会し、帝農入りを引き続き勧誘した。意は動きたるようであったが、まだ承諾しなかった。また、那須博士に東京駅ホテルにて会合し、帝農改革に対する所見を述べ、了解を求めた。博士は改革案に満足の様子であった。22日、温は渡邊幹事長に東浦、那須博士との会見の状況を話した。また、高島幹事にも改革案を話したが、高島は温の処置（高島が勇退し、囑託となること）に不快の様子であった。23日、温は山田副会長、渡邊幹事長と部制改革の最後の協議を行い、山田副会長の修正意見は取り消され、全部温の提案のとおりとなった。この日の日記に「帝国農会改革案決定ス」とある。後、温は幹事長とともに帝大の那須博士を訪問し、東浦説伏を依頼した。24日は午後1時より農業関係団体の経済更生中央協議会の研究会を開き、指導精神その他について協議した。この日、那須博士より東浦承諾の旨の連絡があった。25日、高島幹事が囑託になることに拒絶の如くであったが、山田副会長に説伏され、了解した。26日、温は慎吾に引退の旨通知した。27日、渡邊幹事長と府県農会長協議会の開催について協議、28日、午後1時半より農相官邸にて開催の農村経済更生中央委員会総会に出席し、そこで前日の特別委員会の報告（経済更生計画の恒久化）が承認された¹¹⁾。

7月29日、温は午前10時上野発にて福島県に出張の途につき、午後4時若松市に着き、東山温泉の原瀧旅館に投宿した。30日、温は若松市の公会堂にて、福島県農会主催の農村指導者講習会に出席し、来会の70余名に対し、午前8時半より4時まで講義を行った。31日も午前8時40分より12時まで講義を行った。後、物産陳列場を参観し、午後4時2分若松発にて新潟県直江津に行き、いかや旅館に投宿した。

8月1日、温は午前8時40分直江津発にて石川県に向かい、午後1時石川県河北町津幡町に着き、和倉温泉に行き、しばはな旅館に投宿した。2日、温は午前7時和倉を出て、羽咋郡羽咋町（はくいまち）に下車し、上甘田村妙成

11) 『帝国農会報』第26巻第9号、昭和11年9月、145～146頁。

寺に行き、羽昨郡の中堅農家講習会に出席し、来会の100余名に対し、午前10時より午後5時まで農会の指導精神と農業経営について講義を行った。終わって、午後7時半津幡発にて長野に向かい、翌3日午前1時過ぎ長野に下車し、青木屋に投宿した。慎吾を招き、結婚問題及び帝農部制改革について懇談し、午後2時30分発にて帰京の途についた。

8月5日は赤坂三会堂にて産業組合全国支会、道府県聯合会合同協議会に出席し、米穀自治管理法案外2案の研究会に出席した。7日、渡邊俔治が夜遅く温宅に来宅し、温の辞職に強硬なる抗議をした。この日の日記に「渡邊俔治君夜遅ク来宅。自分ノ辞職問題ニ強硬ナル抗議ヲ申込ミ、自分ノ意思トハ異ナルモ好意ニ謝スルニ余リアリ」とある。8日、温は渡邊幹事長および土屋春樹参事に会い、辞任後嘱託を受けない旨通知した。渡邊幹事長は当惑の様子であった。この日の日記に「土屋君及渡邊幹事長ニ辞任後嘱託ヲ受けザル旨ヲ通ス。幹事長当惑ノ体ニテ気ノ毒ナルモ、意気地ニハ代ヘラレズ」とある。また、午後1時から農業団体聯盟小委員会を開き、協議した。

8月9日、温は午前10時上野発にて福島県に出張し、午後1時白河に着し、角金旅館に投宿し、翌10日、矢吹町修練道場にて開催の福島県産業団体聯盟主催の農村経済更生指導者講習会に出席し、村長、助役、小学校長、青年学校教師、農会技術者らに午前8時より12時までと午後1時半より4時まで講義した。終わって、4時50分矢吹町発にて帰京した。

8月11日、温は渡邊幹事長に辞表を手渡した。また、この日、土屋春樹より藤巻雪生、渡邊俔治、竹山の協議状況を聴いたが、温は「未タ自分ノ真意ヲ解セズ」と感じている。また、午後1時より経済更生中央協議会の打ち合わせ会に出席し、指導精神の問題について協議した。12日午後1時より中金ビルにて経済更生中央協議会の会合を開き、五十子、杉野、土屋、温の4人が出席し、農村の指導精神について議論した。13日、温は西ガ原の農事試験場に安藤広太郎氏を訪問し、一身上の件（帝農幹事辞任）を話した。安藤氏は温を帝農特別議員任命を農林省の戸田農務局長に相談したとのことであった。日記に

「好意ハ謝スルニ余リアルモ囑託問題ヲ失ナツタノハ遺憾」とあり、温は本音では幹事辞職後、囑託を考えていたようである。14日、温は渡邊幹事長、高島幹事と3人にて部制改革案の課長の人選について協議した。また、この夜、温は安藤氏との会談以来自分の前途について不安を感じ、禎子と意見を交換し、青年、学校相手の雑誌刊行の計画を考えている。この日の日記に「昨日午前安藤氏ト会談以来前途ノ問題ニ付多少ノ不安ヲ感じ、帰後禎子ト可成り切迫的意見ヲ交換シタルガ、就寝後青年、学校相手ノ雑誌計画ヲ考へ心機一転、積極的活動ニ動キ心気安静」とある。15日、温は午前11時学士会館にて東浦庄治と会談した。しかし、会談内容に行き違いがあり、問題が起きた。行き違いの内容は囑託問題での温の態度が曖昧なことであった。この日の日記に「午前十一時学士会館ニテ東浦君ト会談…右会談内容ノ行違ヒニヨリ問題ヲ起シ、土屋、渡邊俔、天明、南部四君来宅。事情ヲ話シ了解シテ帰ル。右ニ付渡邊幹事長ニ電話シ、其行違ヒノコトヲ話ス。問題ノ起因ハ自分ノ態度ヲ鮮明ニセザルニ在ルモ、鮮明スベカラザル事情アルガタメニテ多大ノ苦心アリ」とある。16日に東浦から行き違いに苦情が述べられた。17日午前9時、温は学士会館で再び東浦庄治と会談した。東浦は温が囑託に残らなければ自分は帝農入りを中止すると主張した。この日の日記に「午前九時学士会館ニテ東浦庄治君ト会談。中途ヨリ土屋君参加ス。一昨日会談ノ行違ヒヲ是正ス。右ニ対シ東浦君ハアナタガ自分囑託ヲ承ケザレバ僕モ帝農入りヲ中止スト主張シ、終ニ結論ニ達セズ。双方他ニ予約ノ時間ノ為分ル。困ッタコトニナリシモ致シ方ナシ」とある。後、午後は帝農にて販売幹旋所長会議に出席した。18日も販売幹旋所長会議に出席し、議長を務めた。

8月19日、温は渡邊幹事長に東浦庄治と会見の状況を話し、東浦と自分の問題は切り離して決行するように進言した。また、来会の松山兼三郎に帝農改革問題と自分は囑託を受けないことを話した。また、この日、19日から21日までの3日間、帝農は道府県農会販売幹旋主任協議会を帝農事務所にて開催した。全国から50名出席し、農林省側から田中農政課長、岡本販売改善課長、

渡邊俣治技師などが出席し、帝農側から渡邊幹事長、温、天明参事が出席し、協議事項「系統農会販売斡旋事業進展に関する件」「中央卸売市場対策に関する件」等を協議した。なお、19日の日記に「出勤。幹事トシテ最後ノ出勤。蓋シ、明日ヨリ友部、新潟、鹿児島、宮崎へ出張シ、三十一日自宅ニ帰ル予定ナルハ、本月限り辞職スル計画ナルガ故ナリ」とあり、温は8月31日限りで退職するつもりであった。

8月20日、温は午前6時上野発にて、西茨城郡友部町に行き、9時より友部国民高等学校にて開催の農業関係団体主催の農村経済更生指導者研究会（合宿）に出席し、温が主催者団体代表で挨拶、趣旨を述べ、中央畜産会副会頭の岩住良治が座長となり、研究会を行い、温が各提出問題の説明をし、意見の交換、発表があった。夜は加藤完治による満州移民に関する講演会があった。21日午前5時起床、一同運動場に出て、国旗掲揚その他朝の行事をなし、剣道の型を見、9時より研究会を行い、午後1時閉会した。温は「兎ニ角型ノ違ツタ学校ナリ」と感想を記している。温は午後3時40分発にて東京に出て、午後9時上野発にて新潟県に出張の途につき、翌22日午前4時14分直江津につき、いかや旅館に入り、小憩し、自動車にて東頸城郡小黒村専教寺に行き、新潟県東頸城郡から選ばれた郡農会、郡教育会、郡青年団主催の中堅青年養成講習会に出席し、来会の62名に対し、温が午後1時より4時まで小農の本質について講義を行った。終わって、直江津に戻り、午後8時5分発の急行にて九州に向かった。23日午前7時28分京都に下車し、大島京都府農会幹事と待ち合わせ、帝農改革、東浦庄治等のことについて懇談した。大島は土屋より温が囑託として残ることを条件に幹事就任することで解決したと聞いたと述べていた。後、温は午前9時50分発急行にて下関に向かい、24日午前7時10分鹿児島に着し、薩摩屋で一浴後、郡元の故玉利先生の宅を訪問し、また、墓参し、高等農林、県農会訪問後、霧島に行き霧島屋旅館に投宿した。25日午後1時より鹿児島県公会堂にて開催の鹿児島県農会主催の農業経営指導者講習会に出席し、2時より5時まで農業経営の概念について講義を行った。26日も午

前9時より午後5時まで講義を行い、夜は宿にて晩餐会に出席した。27日は午前7時に出発し、宮崎に向かい、10時20分着し、広瀬旅館に投宿し、一浴後、午後1時より宮崎公会堂にて開催の宮崎県農会主催の郡市町村農会長会に出席し、温が1時間ほど農会経営について講演した。28日午前8時より郡市町村農会技術者講習会に出席し、来会の80余名に対し、午後4時まで講義を行った。29日も午前8時半より午後3時まで講義を行った。終わって、生目神社、景清神社を参詣した。なお、この日、土屋春樹参事より東浦君承諾、25日より就任の報があった。30日、午前7時12分宮崎を出て、午後1時西大分につき、紫丸に乗り、高浜に向かい、7時着し、帰宅した。31日は実家で休養した。

温が九州に出張中の8月24日、帝国農会は帝農の部制改正および新陣容の発表をした。

新部制の内容は3部制で、総務部（庶務課、会計課）、農政部、経済部（農業経営課、販売斡旋課、調査課、出版課）とした。この新部制構成の方針は、(1)各部の統制連絡を図りたること。在来の機構は「部」の数多くして動もすれば其の間の連絡を欠く嫌ひありたるに鑑み、農業経営、販売斡旋、調査の各課は之を新たに「経済部」に統一し、さらに出版課を加えて帝農内に於ける事業部面の主要部をここに統制強化せり。(2)農政部の新設。帝国農会は農業諸団体中の太宗として、農民の利益を代表し、各種農政問題に関して一世を指導すべき重責を荷ふべきものなるを以て、農業界の宿望たる「農政部」を新設しかり。この部は農政運動の企画及実行、農政資料の蒐集加工、地方輿論の喚起、農政事情の速報、農政運動に関し各種団体との連絡等々の事務を掌らしめたり。従来と雖も農政運動は帝農の重要使命の1つとして、相当努力し来りたるものなるも、茲に組織を新たにして事業内容を一層拡大強化せり。(3)総務部の統制力強化。従来の庶務部を「総務部」に改称し、帝農の事務内容益々拡大複雑化する情勢に鑑み、庶務、会計の3課を置き、帝農財政の統制強化を図ると共に、系統農会との連絡を一層密にせんことを期したり。(5)出版課の新設。農政其他

農業諸問題に関する輿論の指導は機関誌，機関新聞，パンフレット等印刷物に依るもの多きを以て，従来動もすれば不振の嫌ひありたる出版事業に一段の努力を払はんとす。之れ出版課を新設したる所以たり，であった。

そして，帝農の新陣容は次の如くであった。

総務部長	幹事長	渡邊 忠吾
庶務課長	参事	千葉 容山
会計課長	副参事兼参事	江副 仁介
農政部長	幹事長	渡邊 忠吾
事務主任	幹事	東浦 庄治
経済部長	幹事	東浦 庄治
農業経営課長	参事	土屋 春樹
販売幹旋課長	参事	天明 郁夫
調査課長	参事	石橋 幸雄
出版課長	参事	青鹿 四郎

また，多年幹事として務めてきた高島一郎幹事は8月31日付けを持って退職し，過般退職した勝賀瀬質幹事と共に，当分囑託として務めることになった¹²⁾

9月1日，温は実家にいた。この日，親戚の越智秀夫が来宅し，親戚の永木又市関係の借金解決状況を聴いた。2日は松山市に行き，仏事の買物及び県農会を訪問，3日は千船町の窪田旅館にて松山市水道関係村長，助役等と食事。4日は仏事の準備。5日，亡父25回忌，弟宏太郎3回忌，直吉叔父25回忌，祖父新吾の兄（学林院）の50回忌の法事を営んだ。親類から八木，越智，中川，高木，岡井，八束，仙波，小野，新宅，分家の岡田英雄，岡田卯太郎らが参列した。6日は一色義盛，万福寺らと囲碁。7日は県農会を訪問し，門田晋，多田隆に帝農改革について話し，また，来会の高田代議士とともに岡田村

12) 『帝国農会報』第26巻第9号，昭和11年9月，146～147頁。

の産業組合を訪問。9日は牛渕の八木家を訪問し、末光一家の件について懇談した。

9月11日、温は午後7時高浜発むらさき丸にて上京の途につき、翌12日午前7時10分神戸に着し、駅の食堂にて長島貞（兵庫県農会幹事）に会い、帝農辞任問題について懇談し、その芳志に感謝し、京都に行き、9時29分京都に下車し、大島国三郎（京都府農会幹事）に会い、東浦君の具体的意見等を聴き、午後1時30分燕にて上京し、午後9時帰宅した。13日、温は帝農辞任の挨拶状を草した。14日、農林省に出頭し、戸田農務局長より帝農の特別議員任命するので受けてくれとの話があり、明日まで諾否を保留した。後、帝農に出勤し、渡邊幹事長及び東浦庄治と懇談した。そこで、温が囑託を引き受けないので非常に苦心し、引き留め案を作成したとのことであった。そこで温は幹事長および東浦に一任することを決め、解決した。この日の日記に「帝国農会出勤。幹事長及東浦君ト懇談。幹部ニ於テ自分ガ囑托ヲ受ケザルコトニ対シ非常ニ苦心シ、一ノ引留案ヲ作成シタルラシク、安藤氏モ同意セラレト言ヒ、土屋君ノ意見モ徴シ、改メテ幹事長及東浦君ニ一任スル旨回答ス。右ニテ一応自分ノ問題ハ解決ス」とある。

9月15日、温は酒井会長より幹事解任の辞令及び1級昇給辞令並びに退職慰労金辞令を受け取った。後、帝農職員一同に対し、辞職の挨拶および今後の心持について話した。『帝国農会報』の第26巻第10号に岡田温幹事退職の記事がある。「多年帝国農会幹事として吾国農業界のため尽力し来った岡田温氏は兼ねて辞意を申出中のところ、部制改正問題も一段落ついたので此度退職することに決定、九月十五日依願退職の発令があった。尚同氏は同日付けを以て帝国農会特別議員に任命され、引続き農会のため尽力される筈である」と。

9月15日以降、温は各方面に辞任挨拶に行った。15日は農林省に出頭し、小平更生部長、間部農産課長、農政課を訪問し、帝農幹事辞任の挨拶を行い、また、戸田農務局長を訪問し、帝農特別議員就任を承諾した。16日は幹事就任以来溜まりに溜まった資料の整理を始めた。また、この日、温は帝国農会特

別議員に任命された。帝農の職員出身の幹事が帝農の特別議員になったのは初めてであった。それだけ、温の功績大であろう。17日も書類の整理を行い、また、西ガ原の安藤広太郎氏を訪問し、挨拶をした。18日は農林省に行き、田中農政課長、湯河文書課長、西村金融課長、荷見米穀局長等々に挨拶をした。19日は道府県農会長、同副会長、同幹事、経営主任等々に挨拶状を出し、また、この日、退職金を受け取った。

帝農幹事辞任後も温はなお多忙であった。20日は埼玉県草八幡村小学校に行き、俵締実験の視察を行い、21日は住友銀行丸の内支店にて退職金を受け取り、同銀行と郵便局に預金をした。また、農村経済更生中央委員会の幹事会に出席し、岩手県で開催の経済更生指導者研究会について協議した。22日は石井信用組に負債1,708円余（大正13年総選挙以来の負債）を返済した。また、午後6時より大和田にて経営部の部員との晩餐会に出席した。23日は終日書類の整理、24日は農業国策の研究を起草し、また午後5時より富民協会主催の優良更生村の審査会に出席、25日は農業国策の研究（『帝国農会報』10月号）、26日は午後6時より東京高等農林学校農学3年主催の就職座談会に出席した。

10月27日、温は岩手県に出張の途につき、途中平泉に下車し、中尊寺を参詣し、胆沢郡相去町の県立六原道場に行き、宿泊した。29日、六原道場にて修練生の研究会に出席した本道場（榊原孝次指導）は講義は少なく、労働を生命とし朝、日中、夕とも神事、礼拝厳正であった。この日、午前5時太鼓の合図により起床、朝の神前行事を視察し、7時朝食（麦飯、味噌汁、漬物）、9時神前にて入場式を行い、あと、石黒忠篤を座長とした研究会を行い、午後4時閉会した。夕方礼拝し、夜は満州移民の講話があった。翌29日も午前5時起床し、神前行事、8時より研究会を行い、意見発表があり、温も発言した。12時半研究会を終わり、退場式を挙行し、閉会した。終わって、午後7時20分発にて帰京の途につき、翌30日午前6時帰宅した。

9月30日、10月1日の両日、帝農事務所にて帝農農政委員会があり、出席

した。片野重脩（秋田）、大島英二（福島）、石坂養平（埼玉）、小串清一（神奈川）、山本莊一郎（長野）、石黒大次郎（新潟）、小林嘉平治（三重）、山脇延吉（兵庫）、木本主一郎（和歌山）、恒松於菟松（鳥根）、国光五郎（山口）、鈴木憲太郎（宮崎）の委員が出席し、農林省側は戸田農務局長、西村金融課長らが、帝農側からは酒井会長、渡邊幹事長、高島、野崎各嘱託が出席し、また、温も出席し、辞任の挨拶をした。なお、農政委員会は(1)農林国策に関する件、(2)税制改革に関する件、(3)農会技術員俸給国庫補助増額に関する件、(4)産業省設置問題に関する件、(5)全国農会大会開催に関する件、を決議した¹³⁾

10月も温は何かと多忙であった。1日は書類整理、2日は山脇延吉を築地の高田屋に訪問し、幹事辞任の挨拶および農政運動に対する意見の交換を行った。3日、三井銀行にて退職金5,000円を受け取り、定期預金とした。また、書類の整理を行った。4日も終日書類の整理。5日は農業関係団体の農村経済更生中央協議会の幹事会に出席し、杉野、小林、浜田、鈴木らと協議した。なお、この日、温の左耳に腫れ物ができ、牧野医院にて診断を受けたが、皮膚病の由であった。6日、農林省に出頭し、五十子経済更生総務課長、岡本販売課長に各関係委員の辞任願いを出した。これにて一切の公務関係を辞した。また、この日、門田晋逝去の報を受けた。この日の日記に「思へば去月七日県農会ニテ会談ガ長キ交際ノ最後、今生ノ別レトナル。人生朝露ノ如シ吁」とある。7日は学士会館に福田美知（元幹事）を訪問し、幹事辞任の挨拶等。8～10日書類整理を行った。また、10日左耳の腫れ物が膿み、原田医院にて手当を受け、以降医院に通い、治療を受けた。11日、温は書類、雑誌などを箱に詰め、飯田橋駅前の合同運送飯田支店に托し、国元に送った。13日は午後2時よりステーションホテルにて開催の経済更生指導団体関係者に対する大蔵省の税制改革説明会があり、出席した。14日は午前10時より中金の更生協会にて東宮鉄男中佐の満州移民問題等を聴いた。また、午後5時より大森見晴にて同人会

13) 『帝国農会報』第26巻第11号、昭和11年11月、154～156頁。

による温の送別会があり、35名が出席した。15日は農業国策の研究を執筆し、また、午後5時より東京会館にて開催の富山書房50年祝賀会に出席した。16日、耳の方は大分良くなったが、頭部に2ヶ所腫れ物ができ化膿し、また、今朝より右目の瞼も腫れ、夜分弓狩医師の診察を受けた。17日、温は牧医院にて頭部の腫れ物と右目の手当を受けた。19日、移転の準備を行ったが、頭部の腫れ、耳の手当中にて仕事はかどらなかった。また、この日午後5時より、石黒忠篤が発起代表となり、温と高島の送別会が行われた。長瀬農林次官など農林省関係者、また、高田耘平、八田宗吉らの農業関係代議士、近辺の府県農会長ら80余名が出席した。20日は石黒邸を訪問し、前日のお礼の挨拶を行い、また、移転の準備をした。この日、四阪島煙害感謝状の表装をした。

10月21日より24日までの4日間、第28回帝国農会通常総会が開催された。帝国農会議員、特別議員62名が出席し、温も特別議員(61番)として出席した。農林省側から島田農相、戸田農務局長、田中農政課長、大蔵省より山田主税局長、内務省より田中庶務課長らが臨席し、帝農側からは正副会長、渡邊幹事長、東浦幹事、千葉庶務、江副会計、土屋農業経営、石橋調査、青鹿出版各課長が出席した。21日は酒井会長挨拶の後、渡邊幹事長が諸般の報告(人事異動、内部部制改革、農政委員会の経過等)を行い、農林大臣の告辞、評議員補欠選挙、農林大臣の諮問案の説明があり、また、渡邊幹事長による昭和10年度の収支決算等の説明がなされ、委員会に付託され、午後は山田酒税課長、田中内務省庶務課長の税制改正の要点の説明等があった。22日午前10時開会し、渡邊幹事長による昭和12年度の経費収支予算等の説明があり、また、東浦幹事による各種建議案(1)農林国策実現に関する建議案、(2)税制改正に関する建議案、(3)農林、商工両省合併反対に関する建議案、(4)農会技術員俸給国庫補助増額に関する建議案、等の説明がなされ、11時半全部を委員会に付託することにした。午後2時よりは戸田農務局長より土地制度改善に関する説明があった。そして4時から各委員会を開き、温は農林大臣諮問委員会委員となった。なお、この日、朝、温は牧医院にて臀部の腫れ物を切開した。23日

午前10時より委員会が開かれ、温は農林大臣諮問委員会に出席し、幹部案は小作立法に触れるのを避けていたため、修正して、小作立法の要を加えた。午後3時総会を開き、予算、決算、諮問案、建議案すべて可決した。「近年ニナキ平穩ナル会議」であった。24日は本総会建議事項の実現のため、陳情運動を行うことを決め、3組（第1班は総理、大蔵、国民同盟、第2班は内務、陸軍、政友会、第3班は農林、商工、民政党）に分かれて各大臣、政党本部に決議事項の陳情を行った。なお、山田副会長が最後の日に辞意をもらしたが、留任となった¹⁴⁾。

10月25日、温は、牛込区赤城下町88に引っ越した。禎子とその共同生活者の石島も一緒であった。

10月26日、温は午後9時東京発にて香川県に出張の途につき、翌27日、岡山にて乗り換え、宇野経由で、午後1時20分高松に着き、玉藻ホテルに投宿した。28日、温は興正寺別院にて開催の香川県農会主催の技術員講習会に出席し、来会の60余名に対し、午前8時半より午後4時半まで、右耳に異常を感じながらも農業経営について講義した。たびたび質問を促したが、1つも出なかった。温は「経営的知識の幼稚なるため」と感じている。そして、その夜10時12分高松発の連絡船で帰京の途につき、翌29日午後9時10分東京に着いた。30日は貴族院議員の岡部子爵と共に商工省に行き尺貫法問題で武内商工次官に陳情した。31日は書類整理等。

11月も温は種々多忙であった。1日は書類整理等、2日は農会技術員俸給補助問題で大蔵省主計局が削除したとの報を受け、小串、中村、石黒らの帝農農政委員会常任委員を急遽召集し、対策を立て、大蔵、農林の政務官に面会し、成立を懇請した。しかし、大蔵の主計局長は絶対に面会を受けなかった。

11月4日、温は午前10時30分東京発にて滋賀県に農山漁村経済更生指導者研究会のために出張の途につき、午後7時半大津に着き、元禄ホテルに投宿

14) 『帝国農会時報』昭和11年11月号。1～16頁。

した。5, 6日の両日, 帝国農会外6農業団体共同主催の農山漁村経済更生指導者研究会が比叡山上宿院にて開催され, 出席した。5日午前9時より開会し, 西日本20府県から関係課長, 技師ら160余名が出席した。まず, 石黒忠篤(農村更生協会理事)の挨拶, 来賓の県の福光正蔵経済部長, 県農会副会長松原五百蔵らの挨拶があり, 石黒氏を座長に研究会に入り, 温が協議事項「農山漁村経済更生計画における生産計画に対する指導方針」「農山漁村経済更生指導団体の整備連絡」「農山漁村経済更生指導者指導精神」の説明を行い¹⁵⁾意見交換をした。夜は大僧正田村徳海老師の法話があった。6日は午前5時に起床し, 5時半より朝の勤行, 8時半より研究会に入り, 温が指導者の指導精神について小農の本質を基礎としてあたる必要があることを述べた。今回の研究会は「一種ノ靈氣」があり, 出席者の意見も多く, 石黒氏の「座長プリー一段ト牙へ終始緊張」したと温は述べている。終わって, 午後9時5分大津発にて帰京の途につき, 翌7日午前7時東京に着いた。そして, この日, 午前10時より帝国議会議事堂竣工式に出席した。

11月9日, 帝国農会農政委員会が帝農事務所にて開催され, 農政委員12名が出席し, また, 帝農側から酒井会長, 東浦幹事が出席し, 温も出席し, 税制改革, 農村国策関係の予算について審議し, 午後, 一同と共に温も農林, 大蔵省を訪問, 陳情した。11日は午後6時より中央亭にて帝国農会主催の行政機構改革問題の座談会に出席した。出席者は石黒忠篤(農村更生協会理事), 那須博士(東京帝国大学教授), 東京朝日新聞論説部の関口泰, 東京日々新聞論説部の川辺新蔵, 内務省地方局行政課長の加藤於兔丸などで, 東浦庄治幹事が司会を務め, 軍部や商工業者側が要求している農林・商工合併問題等が議論された¹⁶⁾13日は農業国策の研究の執筆, 14, 15日は農村より見たる税制改革の執筆等, 16日, 佐久間眼科にて眼瞼の腫れ物を切開した。以降, 片目にて不自由している。20日, 帝農に古瀬伝蔵が来会し, 石橋幸雄と3人で温の論文

15) 『滋賀県農会報』第269号, 昭和11年12月。

16) 『帝国農会報』第27巻第1号, 昭和12年1月, に掲載。

集の発刊の協議をした。21日農業国策の研究の続き、小作立法を執筆したが、片目で不自由で筆が進まなかった。22日も同。23日は午後1時より明治神宮にて挙行の新穀感謝祭に出席した。25日は帝農に行き、熊本にて開催の農村経済更生指導者研究会の件について打ち合わせを行った。なお、この日の日記に「幹事長未タ引籠」とあり、渡邊忠吾幹事長に問題が発生していた。後の記事から脳の病気であった。26日は農村経済更生中央委員会の幹事会に出席し、田中農政課長、五十子総務課長が出席し、熊本にて開催の指導者研究会等について協議した。27日に眼帯を取った。30日午後1時より帝農にて農村経済更生中央協議会の農村団体聯盟に関する小委員会に出席し、内藤友明、浜田（産中）、小林（水産）らが出席し、規約について協議した。

12月も多忙であった。1、2日日は農業国策の研究の執筆、3日は明賀みよ子の結婚式に親代りとして出席、4日は午後1時農村更生協会に行き、満州視察団の報告を聴き、終わって、帝農にて農村経済更生中央協議会の幹事会に出席し、農山村団体聯盟に関する規約について協議し、小委員会の案を修正して可決した。5日は午後2時より高德寺における恒例の講農会の追悼会、総会に出席した。6日、温は病気療養中の渡邊忠吾幹事長を訪問した。病状は殆んど全快に近きも、なお、新聞は読み難いとのことであった。この日の日記に「午后渡邊忠吾氏ヲ田園調布ノ私宅ニ訪問ス。病状殆ド全快ニ近キ程度ニ回復スルモ、尚新聞ハ詳細ニ読難シト（脳）」とある。

12月7日、温は午後4時40分発にて静岡から九州に出張の途についた。7日午後8時40分静岡に着き、大東旅館に投宿し、翌8日、教育会館にて開催の静岡県農会主催の農会技術者講習会に出席し、来会の71名に対し、午前9時半から0時20分まで農政経済について講演を行った。終わって、午後4時40分発にて熊本に向かい、翌9日0時50分熊本に着し、研屋支店に投宿した。酒井会長、内藤友明らも同宿。10日、温たちは日吉村大慈寺に行き、午前9時より開催の帝農ら農業関係団体主催の熊本県農村更生指導者研究会（合宿）に出席し、酒井帝農会長の挨拶、藤岡県知事の訓示、三津家県農会長の挨拶

拶の後、予定の如く研究会に入った。夜は小塚宗憲和尚の法話があった。11日午前5時半起床、勤行し、8時より指導者研究会を開き、更生協会の橋本清之助を座長にして研究を進めた。温は指導精神について持論を詳述した。終わって研屋支店に投宿した。12日は大慈寺に行き、県農会主催の郡市町村農会技術者講習会に出席し、午後1時より5時半まで農村更生の要諦について講義した。夕食後は座談会に出席し、大慈寺に宿泊した。13日も午前5時起床し、勤行し、講習会を開き、温が7時半より9時、11時より12時、午後1時より2時半まで講義した。終わって、101名に証書を授与し、閉会した。終わって、5時15分熊本発にて佐賀に向かい、8時20分佐賀に着し、松本に投宿した。14日、聖徳太子館にて開催の佐賀県農会主催の農業経営改善講習会に出席し、午前9時より午後3時まで農業経営に対する概念、改善要項、指導精神について講義し、後、質問応答した。15日も講習会に出席し、午前9時半より正午まで講義し、0時38分佐賀発にて大分に向かい、6時大分に着き、別府松田に投宿した。16日、温は午後1時より大分市教育会館にて開催の大分県農会大会に出席し、温が約40分間税制改革について講演を行った。17日は午前旅館で著書の「小農の本質」を書き始めた¹⁷⁾そして、12時半発の紅丸に乗り、帰京の途につき、翌18日午前6時半神戸に上陸し、7時20分発のさくらにて午後4時半東京に着した。

12月19日、温は丸の内会館における山田副会長招待の午餐会に出席し、午後5時から帝国ホテルにおける松岡忠一東京高等農林学校長の招待会に出席した。21日は帝農に行き、千葉参事と議会对策の協議。22日は年賀状を認めた。23日は帝農にて農業経営設計審査会があり、出席した。24日に広田内閣下の第70議会が召集された。25日は賀状を認め、26日は帰国の準備、27日午前9時東京発にて帰国の途についた。

17) 『岡田温撰集』第1巻農業経営に所収。

第2節 講農会、東京高等農林学校関係

講農会について。温は大正10(1921)年1月以来、ずっと講農会長を続けていた。3月14日に新橋今朝にて講農会の懇親会があり、出席した。12月5日には恒例の講農会追悼会及び総会を開いた。

東京高等農林学校について。前年の昭和10年4月1日東京高等農林学校が創立された。従来の実科生は東京高等農林学校生となった。9月10日、府中の新校舎に東京高等農林学校が開校し、府中で授業が始まった。そして、本年、昭和11年3月16日、東京高等農林の第1回卒業式があり、参列した。温は日記に「感無量」と記している。その夜は渋谷福寿亭にて卒業生の懇親会に出席した。麻生校長以下職員数名が出席し、「実科時代ニハナカリシ」ことであった。3月26日に帝農にて交友会幹事会を開いた。今回は麻生校長辞任、松岡忠一(前、宮崎高等農林学校校長)校長任用在話題となり、幹事から不平の声が上がったが、温はその意見に反対した。4月20日交友会幹事会を開き、山本、成毛、永山、中村、原などの長老連も出席し、高等農林の新校長の件につき協議し、歓迎会を開くことを決めた。23日に交友会幹事と高等農林の各科各級代表者15、16名と会見し、生徒の不平、希望を聴き、温は「同情ト訓戒」を与えた。5月1日、中央亭にて松岡新校長の歓迎宴会を開いた。交友会幹部30名が出席し、打ち解け歓談した。9月21日は交友会幹事会を開き、組織改正について協議した。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香(明治28年3月21日生まれ、40歳)は南吉井村大字南野田で3女の満子(大正9年5月27日生まれ、この時16歳)と住んでいた。清香の長男の権一郎(大正7年3月11日生まれ、この時17歳)は昨年上京し、末光元広(故末光順一郎の弟、陸軍中佐)宅に住み、受験勉強中であった。本年1月3日、温は南吉井村大字牛淵の八木忠衛家を訪問し、末光一家および清香のことについて協議し、孫の権一郎が東京高等農林学校に合

格すれば清香を上京させることを決めた。その権一郎は1月22日より末光宅から温宅に移り住み、受験勉強に励んだ。3月1日、温は末光元広と相談し、南野田の居宅の処理について協議し、清香を東京に呼び寄せ、権一郎と共に学生の世話をさせることを決めた。3月19、20日、権一郎は東京高等農林学校の入学試験を受験した。20日の日記に温は「権一郎多分及第」と記している。翌21日、東京高等農林の井本氏から権一郎及第の電話があり、合格した。温、慎吾、権一郎と3代に渡り、同じ学校に入学した。4月はじめに入学式があったと思われるが、その記事はない。なお、4月4日に温は権一郎の学資120円を八木忠衛に請求しているので、南野田の末光家の経済面は八木忠衛家が支えていたようだ。そして、清香は5月3日に上京した(ただし、住居は不明だが、赤城下と思われる)。6月11日に清香が温宅を訪問した。清香にまた問題が発生したのであろう。温はこの日「懇々ト訓諭」している。8月4日にも八木忠衛に清香、権一郎の費用、予算の手紙を出している。清香の生活は苦しかったのであろう。10月2日に電燈料金不納のため、電気を絶たれた。この日の日記に「六時頃清香来り、赤城下ニ電燈料不納ノタメ電気ヲ絶タレシ由聴キ、直ニ東電ヘ交渉シ、清香ニ四〇円持タセ、即時送電セシム。東電ノ辛辣、実ニ驚クノ外ナシ」とある。12月20日に温は清香に会い、懇諭し、自己反省を求め、また、温の妹、ケイ子に援助を切望した。

次女の禎子(明治35年2月2日生まれ、33歳)は、温と同居し、作家として活動し、戯曲を発表し続けている。なお、禎子は石島と共同生活をしている。8月13日に禎子と今後の方針について懇談した。禎子の生活問題が難問であった。10月25日、温は禎子と共に、牛込区赤城下町88に引っ越した。禎子の共同生活者の石島も一緒に引っ越した。この日の日記に「赤城下へ(牛込区赤城下町八八)引越シ。運送会社ヨリ四人ト山下、塚田、大西、両角及洗濯屋ト八百屋ノ小僧ヲ手伝ヲ受ク。大型トラック三台ニテ一切ヲ送ル。禎子ト石島ハ各自ノ部屋へ、自分八十畳ノ客間ヲ居間トシテ本箱整理、簡箆其他ヲ置ク」とある。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ，27歳）は小野基道（医者）に嫁ぎ，本年3月8日，子供を出産した。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ，23歳）は長野県農会技手を務めていた。